

南相馬あいろいろプロジェクト

3月20日、区役所では、Asabiの愛称で知られる阿佐ヶ谷美術専門学校の学生たちによる福島県南相馬市の藍染め作品を紹介する展示会が始まりました。南相馬の藍は、東日本大震災後、津波や原子力発電所事故の影響で作付けできなくなった耕作地で栽培が始まったもので、地域の復興に向けた取り組みとして注目されています。展示は、3月30日まで、藍染めのストールやトートバックの販売も行われています。

杉並区と南相馬市は、平成17年5月に「災害時相互支援協定」を締結。その後、発生した東日本大震災以降、この協定に基づき人的・物的支援を行ってきましたが、特に震災後に発生した原発事故の影響は大きく、それまで南相馬市の基幹産業だった農業に大打撃を与えました。南相馬市鹿島区南柚木（みなみゆぬき）地区も、それまで代々受け継がれてきた田畑に、コメや野菜を作付けすることができなくなってしまいました。

こうした状況にあって、ただ悲観の中で暮らしていても仕方がないと、地域の女性たちが立ち上がりました。それが、藍の栽培です。中心となったのは、現在、南相馬藍サークル・ジャパンプルー柚木の代表を務める森キヨ子さんです。森さんのほかにも、地域のメンバーが藍の栽培と藍染めの作品作りに取り組むなど、藍を通じた心の交流を目指しています。

阿佐ヶ谷美術専門学校（杉並区梅里1丁目）は、70年以上の歴史を誇り、デザインやデッサン、映像などのクリエイターを数多く輩出している専門学校です。杉並区とNPO法人の協働事業「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」を通して南相馬市との関係を築いた阿佐ヶ谷美術専門学校の学生たちが、自分たちにできる支援はないかということで、この「藍×愛で復興を描こう」をテーマにした「南相馬あいろいろプロジェクト」がスタートしました。



昨年9月、中国、韓国からの留学生も含めた7名の学生たちは、南相馬市の藍の栽培農家を訪れ、藍の葉の収穫や藍染めを体験。また、南相馬藍サークル・ジャパンプルー柚木の方々の作品の美しさや優しさに触れ、それらを多くの人に知ってもらうためのロゴマークやチラシの作成に取り組みました。

本日20日から30日まで、区役所ではこうした一連の活動を紹介した展示と、1点1点が手作りで同じものがない藍染めの作品の販売を行います。作品は、どれも『藍』の素朴な風合いと丁寧に手作りされた『愛』を感じるものです。小さなトートバックが700円、スカーフ、ストールなどは1500円から2500円。注文販売の傘は、15,000円です。どれも手作りなので、それぞれ10点程度しか用意ができていませんので、早めのご来場をお勧めします。

【販売】 コミュかるショップ（区役所1階） 平日 9:00～16:30